

479

特211

192

賀川豊彦著

組合國家を論じ國家改造に及ぶ



* 0005641000 *

0005641-000

特211-192

組合國家を論じ國家改造に及ぶ

賀川豊彦・著

東京学生消費組合

昭和9

ABD

特211
192

賀川豊彦著



組合國家を論じ國家改造に及ぶ

東京學生消費組合出版





組合國家を論じ國家改造に及ぶ

賀川 豊彦 講演

昭和九年五月十七日
於 大隈講堂
主催 早稻田第二高等學院辯論部

明治廿一年七月十日神戸市上町に生る、徳島中學を出で、
明治三十二年神戸市立第一高等學校に在り、
大正三年神戸市立第一高等學校に在り、
當時より神戸市立第一高等學校に在り、
當所を設け、指導者となる。以後社會運動の第一線に起ち、
西労働運動の指導者となる。大正十三年中央職業紹介委員を命ぜられ、
組合を創立し、大正十二年中央職業紹介委員を命ぜられ、
同年九月上京大震災罹災民の救護に盡す。同委員を命ぜられ、
産業青年會を設立し、大正十三年四月帝國經濟會議を主宰し、
命に各種新聞雜誌に執筆す。著書の主なるもの「貧民心理
の研究」「精神運動と社會運動」「人間苦と人間建築」等
あり、殊に創作「生存競争の哲學」「苦難に對する態度」等
和四年七月より東京市社會局囑託として東京市社會事業方
面に盡す。ドクトル・オプ・デグニチー、昭和九年六月財團法人愛育會評議員とな
る。

◇政黨の無力と議會の改造 最近我國に於て最も問題になつて居ることは政黨の無力といふことである。即ち議會の過半数を擁して居る政友會、また偉大なる過去を持つて居る民政黨、この二つが政策協定をして、立憲國家の常道に還へらうとして居るけれども國民が容さない。國民は政治に對して殊に政黨に對して飽きが來て居る。國民は今の政黨に依つて日本の無産階級は解放されると思つて居ない。寧ろ少數官僚ともいふべき正直者、さうした者の方が國政を委するに相應しいといふやうな考へを一般の輿論が有つて居る。斯ういふ事實を諸君はどう觀て居られるか。又然らばロシアの如く所謂共產主義の政綱を以て過去一切の傳統を叩き壊して、さて、そのソヴェット主義が結局どういふ政治を今やりつゝあるか。御承知の通りにロシアの共產主義は暴力革命に依つて始められたものであるけれども、今のやつて居ることは共同組合を基礎にして居る國家行政にしか過ぎない。即ち農業の耕作法にしても、これは一種の土地利用組合即ちコルホーズといふ形に依つてやつて居る。又、ソヴェットが直接やつて居るソホーズなるものを見ても、それは一種の直營農場であつて、所謂絶對の共產主義とは縁の遠いものである。これを考へると、共產主義といふものも、とゞの詰りは、組合的組織のほかに行く途がないのぢやないか、斯う私共は考へる。

然らば今度は恰度正反對の右翼運動としてのファッシズムの運動、即ちムソリーニが七月一日から實行するといはれて居るギルド國家といふものも、是又組合といふものを、共同組合或は日本でいふところの、産業組合といふものを基礎にして居るものである。獨裁政治といふものを布いて見たけれども、

結局獨裁主義だけでは、國家の維持が困難であるが故に、今迄の政黨政治とは違ふけれども、新しき産業組合或は共同組合といふものを基礎にする共同組合國家といふものが打建てられなければ、眞の國家行政が出来ないといふことになつて居る。

最左翼から來ても組合國家、最右翼から來ても組合國家、而して今の日本のやうな政黨政治は破産しつゝあるとするならば、吾々がこゝに考へなければならぬのは組合國家である。而して私が組合國家を論ずるといふのは、この最左翼からの動向、最右翼からの動向、その一致點に於ける組合國家を論じたと思ふのである。

◇組合國家の根本問題　なぜ斯ういふ風に組合國家といふものが問題になるかといふならばそこに理由がある。これに就いて私は今より十數年前前に「主觀經濟の原理」といふ一冊の書物を發表して、組合國家でなければ眞の國家は出来ないといふことを發表した。斯ういふと何だか年寄のやうであるが、私は十數年前に、來るべき國家といふものは、單なる共產主義の國家ぢやない。單なる社會主義の國家ぢやない、單なる思想運動では駄目である。どうしても經濟といふものを、社會化したる組合といふものを基礎にする、それから來るところの國家でなくちやならぬといふことを、既に發表したのである。たゞ不幸にして其の後の日本の若き青年學徒が非常に革命思想に走つて、餘りにも唯物的な、餘りにも主義的なともいふか、思想的な運動に捉はれ過ぎて、現實としての經濟運動を無視した形がなきにしも非ずである。一體こゝに考へなければならぬことは、思想と生活の分離である。若き青年學徒はどう

かするとすぐ、生活といふことを忘れて思想の方に傾き易い。思想運動は非常にやり易いものであるけれども、生活の全面的改造といふものは、これは一瞬間には出来ない。

◇本能の改造　一體人間といふものは三つの要素を有つて居る。即ち、無意識的なもの、本能的な半意識的なもの、これは本能の部分、或は意識的な、そこには倫理的社會的な要素を持つて居るが、階級意識といひ、國家意識といひ、民族意識といひ、國際意識といふ意識的なものは思想運動になり得るのである。それで青年學徒は思想的には非常に解りが速い、で意識運動としての社會運動に走るのであるが、偕て實際生活にはいるといふと、本能の部分に根強くはいつて居る。而して經濟活動といふものは意識活動を時に依ると除外して居る場合がある。物の取引なんといふものは、これは思想的に取引して居るのではない、むしろ本能的に取引して居る場合が多い。であるからして、思想運動に依つて始められたところの社會活動といふものは、それは革命であるにしても、或は獨裁的な暴壓にしても、觸れるところは意識的方面に止まるのであつて、根強く本能的部分にまで觸れないことがある。本能から改造するといふことは容易でない。例へば一番早いのは性的問題、或は食物の問題、衣食住に關する問題である。斯ういふものは、本能に屬する部分であるから、意識的思想運動とは餘程違ふ。であるから、眞に改造運動といふものは、本能の組立から變へて來なければならぬ。本能の組立から變へて來るのには相當に暇が費るのであつて、これは、徐々に辛抱して組立てる必要がある。本能といふものは變らぬものでない、變り得るものである。チェンヂブルなものである。これは本能の變化性を研究して居

る、有名なチャールズ・ダーウインの友人であるアルフレッド・ラッセル・ワレースの如きが本能と雖も變革し得るものであると論じて居る。本能をも改造し得るためには革命のやうな急いだものでは駄目だ。私は暴力的なもの、或は法律的な變革といふものが必要でないとはいはない。けれども、もう少し深いものがある。本能といふものを統制し得るもの、それは宗教である。

◇本能を改造し得る宗教 諸君は私が茲に宗教といふことをいふと變に思ふであらうが、本能を改造し得る性質を有つて居るものは、それは宗教といふ言葉で現はせば一番よいのである。で、本能中のある變化性を抜き取つて来る、それを根強く改造し得るものは、内側から自づと湧いて來るところの轉心といはうか、リッペンタンスといはうか、轉向性といはうか、人間が運命的な宿命的な決定的なものではなく、どうしても人間といふものが改造されなければならぬとするならば、内側から改造されなければならぬ、かういふ意味から私は主觀的經濟といふことを、十數年前から主張し來つたのであつた。人間それ自身の本能が轉向して、個人主義的な資本主義的な經濟から、より高い共同的な本能經濟に移らうといふには、そこに人間それ自身が改造されなくてはならぬ。個人主義的な人間が社會主義の思想に感染されても、さういふ社會といふものは、少し弛むと直ぐにバラバラになつてしまふ。これは諸君が社會運動をやられたら判る。農民運動の如きは、利益のある時だけは大きな無産運動が出来るが、一旦利益が満足されて小作料が下るとか、或は主張が通るといふと、今度はその小作爭議の動機が利己的動機であり、個人々々の慾望を満足すればよいといふだけであるから、成功したら分解作用が直ぐに

始まる。で、無産運動でも賃銀の値上げだけで始つたものは、大抵賃銀値上げが成功したらバラバラになつてしまふ。私は今迄の無産運動の經驗でこんなことをして居れば、幾らやつても日本の國の無産運動は眞の意味の國家改造にならないと思つた。これは動機が間違つて居る。これは本能の反意識的方面の要求が利己的なのである。高い理想から他愛的本能を以て自分の慾望、自分の家族だけでなく人の家族、人の悲みを自分の悲みとするといふ、その高い本能にまで向はせるのでなければ、眞の社會改造はあり得ないと考へたのである。利己的本能が宇宙目的と合致する、新しい本能へ轉向せねばならぬことを考へたのである。私はこれを宗教と呼んでゐる。即ち善といふものが本能化され、贖罪愛が本能化されて來なければ、眞の國家改造は出來ないといふことを主張して來た。

然るに最左翼の人々は宗教を阿片なりと主張して私の考へて居るやうな、本能の改造といふやうなことに就ては全然觸れて居なかつたのである。むしろ本能といふものは外側から改造し得るといふ風に説かれた。けれども諸君も御存知の通りに生物學の進歩に依つて、外部的な境遇の變革に依つて本能を變革し得る程度は洵に微細であつて、寧ろ内部的、内側からの發生作用といふものが強いのである。私は内側からなるものを求めて行く點に於ては、宗教的なる力に依らなければ、眞の個性改造、本能改造はあり得ないと考へたのである。

◇職業經濟學の出現 それが更に進んでは職業といふものになつて來る。職業といふものはマルクス經濟學では疎んぜられて居る。私共のやうに人間の本能から經濟を觀て行くものにとつては、職業經濟

といふものはとても大きな問題であつて、今日のマルクス経済學なんといふものは、むしろ都市經濟といふものを十分説明するに足りないものである。都市の經濟は、職業經濟である。大正八年頃から日本に於ても、職業紹介所といふものが出來た。大正七年に米騒動がある。漸く國家に社會局といふものが出來た。又縣々に社會課といふものが出來た。それ迄は日本には社會といふ名さへ國家が忌み嫌つたものである。さうしてそれまでといふものは職業紹介所は個人的な經營で、國家がこれを管理するなんといふことはなかつた。然るに時代が進めば進むほど、單なる物的經濟といふものではなく職業經濟といふものがとても大きな經濟になつて來た。さうして職業經濟の半面には失業といふ問題が大きな問題になつて來た。

すなはち物の經濟から觀るならば、業といふものに關する經濟といふものが、寧ろ人間が物の附録になつたやうに感ぜられるのである。實際諸君がぶつつかつてみたならばお解りになるが、人間は必ずしも、物のためにのみ經濟生活をしてゐない。例へば、或る音樂をやりたい人がある。彼は食ふ爲には田舎へ歸れば生活は樂だ、親爺もしつかりして居るし、彼のおふくろも飯は喰はして呉れる。然し村へ歸れば彼は音樂家としては立てない。貧乏してもパンに飢えても東京に居つて自分の本能的特色を發揮して天分の業に安んじて居りたい、この自分の才能を伸ばしたいといふためにこゝに彼は音樂家といふ一つの職業を擇ぶのである。これを身體に譬へていふならば都市に於ける都會の經濟といふものは、これは顔面に等しい。さうして單なる物の經濟といふものは手足に等しい。我々は單に食ふためであつたな

らば口だけでいゝ。或は勞働するだけであつたならば手足で結構である。ところが都市經濟といふものは、目に關する經濟を發達させる即ち寫眞業、活動寫眞は各種の色彩、或は形に關する色々な學問、それに對する職業、或は印刷物、書物、あらゆる目に關する經濟がぐつと發展する。それ相當に適當な本分を持つて居る人が——天分を與へられてゐる人が都會に居りたいといふ氣になる。耳に關する職業でも或は嗅覺に關しても同様である。殊に味覺に關するものは都會に於て發達するものであつて、農村に於ては發達しない。觸感覺に於ても同様である。

◇本能經濟より意識經濟へ 斯くの如く文明が段々本能的に進歩し、文明が段々心理的に伸び行く場合に於ては、物的經濟とは違つて心理的經濟學といはうか、本能經濟學といはうか、本能經濟學から更に意識經濟といふものに進んで來る。であるから、この人類の慾望といふもの、それを單に衣食住だけと考へてしまつたならば、經濟の解決はなんでもない、實に容易であつて、人間が食物に困るなどいふことは絶對にない。米は出來過ぎて困つて居る。小麥でも大麥でも食物は有過ぎる。最近日本の國に於て一九三〇年と一九三三年と二度米が餘つた。一割位多く穫れ過ぎたために米價は激落した。一九三〇年の如きは十一月四日頃の米價は、堂島邊りは一石十二圓に下つたのである。さうして世界の食糧を調べて見るならば、世界の食糧といふものは今十九億位人口があつても、これが三十八億になつても人間調へて見るならば、世界の食糧といふものは今十九億位人口があつても、これが三十八億になつても人間の食ふべき食物は幾らでもある。シベリアだけでも燕麥を作るならば、裕に日本の何層倍かの燕麥が穫れる。カナダはシベリアの恰度十三倍ある。であるからして、少し努力すれば、世界の人口が今の二倍

三倍になつても、食物は絶対に缺乏するといふことはない。

◇天分と生活のチレンマ 私はこの食糧論に就いて特に考を向けて、今より矢張り十年程前にジョン・マ・セスマラツスの書いた「世界食糧資源論」といふ本を新潮社から出版した。又、最近私はラツセル・スミスの「立體農業の研究」といふ本を翻譯した。この本は經濟地理的の立場から世界の食糧が足りるか足らんかといふことを研究した書物である。立體農業の角度から見れば世界に食糧は有餘の程ある。が人間といふものは、食物が餘る程あつても遊んで居るといふことは出来ない性質のものである。又、着物にしてもさうである。着物などでも人間が著るには餘る程着物は造り得るものである。

今から恰度百年程前にマルサスといふ人が人口論を唱へて、人口は幾何級數的に増加するけれども、食物といふものは算術級數的に増加する。故に食物といふ物は永遠に足りないといふことをいつたが、それはあの當時經濟地理學の發達しない時の浅い料簡であつて、今日世界の食糧を科學的に研究した人はあんな無茶はいはない。然るになぜ都會の人々が食物に斯くの如く缺乏し、生活に脅やかされるかといふならば、そこにチレンマがある。彼は村に歸つて行けば、殊に燕麥といふ物を食ひ、或は焼餅に満足するといふならば食物に困らるのである。けれども、彼は村で百姓することを嫌ひ、俺の天分は學者にむいて居る俺は天文學をやりたい、俺は博物學をやりたい、俺は少し月給が少くともよい、都會に居りたいといふさういつた職業を選択するといふ點に力を入れるのである。それで生活問題との間に引掛りが出来る。この問題を考へねばならぬ。人間はなんでもいふ風な出鱈目な生活をして居られな

い。やはり本能の發展する儘に自分の職業の天分といふものを選んで自分の天分を伸したいといふ慾望とさうして伸ばしつゝ生活したいといふこの二つがある。このチレンマが今日の失業問題といふものを非常に困難ならしめて居る。

◇轉業轉住の困難 一例を以ていふならば大正十年に(一九二一年)神戸に大きな勞働爭議があつて、六千人ばかり失業した。その時長崎縣の方からも、大阪からも、殊に大阪邊りからは澤山の職業の就職口が神戸へ來た。其時私は六千人からの失業者に向つていつた。「大阪にお移りになれば斯ういふ口があるが行きませんか」と、すると「嫌です、私は神戸に居りたいんです」といふ。職業があつても、その職業が少し自分に向かなければ、或は自分の家族が學校にはいつて居る、友人などが其處にある場合にそれを全部断ち切つて移ると云ふことはしない。生活とは違ふ。そこに何か人間の本能的な要素が加つて居るのである。唯物的なものだけでは決定出来ない難しい點がある。これはヨーロッパの失業問題に於て絶えず問題になる點であつて、ヨーロッパでは職業の選擇といふことを比較的喧しくいふためにいろいろの困難が起つて居る。例へばイギリスに於て百二十萬人失業する。イギリスでは職業紹介所は全部國營であるが、失業保險を貰ふ時には職業紹介所の入口で案内をする。「私は失業して居ります。私は機械職工の中のミールリングが本職です。」「旋盤職工であります。」「私は機械職工の中の仕上であります。」「同じ機械工でも専門々々が違ふ。或る者はタービン職工といつて一センチメートルの千分一位の細かい仕事をやる。私はタービン職工を十年位やつて居りますから、私はタービン職工に使つて

欲しい。」と申出る。がタービン職工といった職業といふものはさう澤山ある譯ではない。するとその失業して居る間はすつと、失業保険金を掛けて居つた程度に於て、手當を貰つて行く譯である。それでドイツ政府が失業保険金のために倒れてしまった。今はドイツは失業保険金を拂つて居ない。拂はないといつてヒトラーは蹴つてしまつた。イギリスはそのために到頭悩みに悩んだ末、新しい國家行政が現はれて、失業保険制度を新しい方向に改造して行かなければ、改造は行はれないといふことになつて來た

◇天分を伸張し得る社會經濟組織の問題　そこに職業の選擇といふものが、經濟組織の實にデリケートな點に迄喰ひ込んで居るのである。ロシアでは失業者がないといつて居る。最左翼宣傳をする人達はロシアには失業問題がないぢやないかといふ。ロシアに於て失業問題がないといふのは、職業といふものを高級的な職業にまで導くやうにして居らないからである。タービン職工に向つて命令してお前は直ぐに百姓をせよ、鋤持てといへばそこに失業問題はない。けれどもその人の天分、その人個人々々が持つて居るデリケートな、世界にまたないやうな技術を持つて居る者に、お前は山へ行つて木を伐つて來いといへば、その人には失業問題はないけれども、それは文明の進歩と並行した方向に向つた意識經濟組織でない。であるから、ロシアに失業がないといふのは、ロシアには食物があるといふことと同じである。食物問題からいへば世界には食物はある。けれども職業がない。それで世界といふものが食物問題から離れて各自々々が持つて居る天分といふものを内側から心理的に考へて、その人の天分々々を利用して、文明が進歩して行くといふための新しい經濟組織を持たねばならぬのである。これは實に單な

る暴力や、武力や法律だけでは解決出來ない。であるから私共に云はするならば、ロシアが少し落付いて輕工業が發達して來れば、恐らくは失業洪水で困つてしまふであらう。で、我々は單なる重工業とか、或は又食物だけを考へるやうな程度の低い國家行政、經濟行政だけを考へてはならない。人間の天分に相應して、自由に人間の天分を伸ばし得る職業選擇の可能なる經濟行政を考へて來れば、如何なる形で以て文明、文化を組織立て、行くかといふことが問題になつて來る。そこにすなはち組合運動、共同組合といふものの發生する必要がある。

◇交換即搾取の誤　すなはち分業といふものが認められて來る社會と、分業といふものを全然無視する社會とに國家組織が變つてくる。ロシアは分業といふことを必ずしも先きにしなない國家である。ロシアは專制といふこと、獨裁といふことが先きであつて、分業に向つては餘り本質的價値を認めない。すなはち賣買とか、交換とかいふことを認めない。ロシアの經濟學といふものは賣買が即ち搾取の根本であるといふ出發點を持つて居る。これは分業といふものを否定すればさうなる、一つの組織をきちんと上の方で縛つて、下の方が命令的に動くとするれば賣買は要らない。けれども分業といふものを認めて、A、B、C、D、E、Fとの間に、各々進むべき方向を決定せしめて、その間に互ひに流通さすところの交換作用を認めて來るといふことになる。ロシア流の經濟組織は變革する必要がある。それはロシアに於て資本主義に一步を譲つたといふ、あのニュー・エコノミク・ポリシー(新經濟政策)がそれであつて、私の考へでは分業を認めまた交換といふものを認めても、搾取をしなければそれでよいのである。

搾取をしない社會經濟といふものは、所謂協同組合の根本原理になつて居る。ロツチデールの原理即ち利益といふものは全部拂戻しをする、この利益拂戻しといふ原則を持てば、交換經濟にはいつても搾取といふことはなくなつてしまふ。ロシアに於ては最近交換即搾取であるといふ一つの謬見があつた。それで消費組合に對して皆解散を命じた。さうすると統制は亂れてしまつた。配給機關が行はれなくなつてしまつた。それで遂に一九二一年からもう一度一九一九年に解散を命じたところの消費組合の復活を命じた。レーニンはその時に「惡かつた、もう一度消費組合を起さう」かう彼は共產主義から組合經濟に逆轉して來たのである。

◇搾取なき交換經濟樹立と統制の必要　私が先きに述べた如くに交換經濟といふものを認めても宜しい、分業といふものを認めても宜しい、分業といふものがなければ社會は進歩しないのである。社會を進歩さすやうに分業を設け、分業がある場合に於ては交換を認め、交換があつても、資本主義的なる搾取をしないやうな協同組合を作つて行けばよいのである。そこで私は、どうしても、分業的なる社會經濟に移る場合には、協同組合といふ搾取なき交換を可能とする經濟組織に移らなければ、眞の國家行政といふものは圓滿に行はれないと考へる者である。

協同組合といふものは唯單に搾取なきといふだけでなく、もういつ統制經濟といふものが加つて居る。或人は言ふだらう、それは君主專制でいゝぢやないか、何も統制といふことを言はなくてもいゝぢやないかと。然し專制と統制とは違ふ。獨裁主義といふものと統制統濟といふものとは自ら違つて居る。

人間といふものは個人々々に依つて慾望が違ふものであつて、或人は書物が讀みたい、或人は眼鏡をかけた。ところが上だけで定めるといふと、衣食住だけは決められるが、眼鏡や書物は決められない眼鏡は平等に分けられる理由はない。さうすると、そこにどうしても困難が起つて來る。齒が痛い、藥が欲しい、或人は音樂的才能があるからしてヴァイオリンの弦が欲しい。單なる專制的分配法に依ると云ふと、そのヴァイオリンの弦が來ない。そこで仕方なしに無理して、自分の食物を賣つて、或は持つて行つて物々交換をするといふやうな、實に妙な經濟が生れる。これがロシアに於て極く最近まで——一九三二年頃迄、殆んど配給制度それ自身が惱んだ理由なのである。專制的な分配制度を採れば、人間の活動力は鈍るのである。人間の發意——イニシエタイプといふものは（經濟的目的性といふものは）缺けて來るのである。であるからして人間の個性の一つ一つが全能力を發揮すると共に、而も搾取なき統制經濟を保たうとすれば、こゝに國家組織の内部に協同組合といふものを作らなければ、眞の統制經濟にまで進み、而も搾取なき經濟組織を作る譯に行かないのである。であるからして、私共はこの統制といふものを考へるために、協同組合を絶対に必要と考へて居る。

◇國營と協同組合　或人は言ふであらう。だから國營に行けばいゝぢやないかと。然るに國營といふものは民衆を愚にする場合がある。例へば一例をとつて見るならば——私は露骨の批評をするが——我國の煙草の專賣である。我國に現在産業組合が一萬四千四百三十二ある。而もその一萬四千四百三十二の産業組合には約五百萬家族がいつて居る。この搾取を基礎としない協同組合には煙草を賣らして吳

れない、今でも賣らして呉れない、それはその理由を調べて見るならば、縣々に——これは最近變つたから最近の例ではない——二年程前までは縣々に元賣捌所があつた。これは政黨の基金を寄附する人である。それで政友會が天下をとつたならば、誰々がやれといふことで、その元賣捌所は政友系統の或者が貰つてしまふ。さうするとその賣捌店が、小さい町の隅ツこにある小賣店に卸すのである。斯様になるからして國營事業といふものは、下手くそにやるといふと、一種の私立會社を一つ殖やすだけである。これは健康保險がさうなのである。諸君は健康保險なんていふものは、これは實に理想的なものであつて、それはいゝと思ふであらうが、英國でもドイツでも、デンマークでも醫療組合といふものが成功してゐないところの健康保險は、政府も悩み、醫者も悩み、患者が一番悩んで居る。

此間もイギリスの有名な社會事業家ミス・レスターが來て言ふた。イギリスは總人口の六割五分が國營の健康保險にはいつて居る。然るに患者が保險證書を持つて醫者に行く。ところがイギリスの醫者に拂ふ保險金といふものは非常に少いものである。それで保險證書を見せたら診て呉れないから、患者は最後まで黙つて居つて、普通の患者のやうな顔をして看護婦に跟いて行つて、愈々裸體になつて醫者の前に立つたといふ場合に保險證書を一寸見せる。と「オヤ君は保險にはいつて居るのか、ちやもう一べン着物を着給へ」といつて、後へ廻してしまふといふやうな有様で、國營といふものが必ずしもいゝものではなう。

◇醫療組合と醫師會の反對 吾々は今全國に醫療組合といふものを作つて居る。我國の一年間の醫師

に拂ふ金額は、少し前の統計ではあるが、約五億九千萬圓位である、全國に醫者が四萬九千人位居る。さうして我國の醫師會といふものは世界に類のはいほどの公法人として恐しい力を持つて居る。そのために醫師自身の決定した罰金といふものを、醫師會の規約に反した醫師に向つてかけ得るところの權利まで與へられてゐる。驚くべき制度になつて居る、最近日本の無産農民の一年間の平均収入はたつた四百五十圓である。この四百五十圓の僅な収入の約二割八分といふものは醫者に拂つて居る。昭和五年の統計局の發表に依ると、都會の勞働者はその収入のたつた六・五%しか醫療に使はれてゐない。村に於てはその約五倍乃至四倍半にも近いところの金を醫者に拂つて居るのである。それでこれを救ふのには、どうしても醫療組合がなくてはならぬ。秋田縣の如きは、醫療組合の病院が七つある。岩手縣にも最近出來たが、最近に十三にならうとして居る、青森縣にも今七つ位ある。さうすると醫師會はもう絶對反對で、東京の如き醫療組合にはいつた醫者には罰金を十圓申し付ける。その醫師會の規約に反して、醫師會は一日藥代は三十錢である、醫療組合はたつた十錢か十五錢しか取らない、半分ぢやないか、そんな組合に従事する醫師は怪しからぬ奴だといふので罰金十圓、まあ驚いた話であるが、斯ういふ強い力を持つて居る。それに對する決定權を否定する力は知事だけが持つて居るのである。東京府知事は幸にして、賢明であるがために、その判決は間違つて居る、醫師會の決議は間違つて居ると、到頭さういふことを發表して下さつたが、これは解つた知事である。

然し兎に角さういふやうな譯であるが、事實を云はう。群馬縣桐生に何萬人かの女工が居る。あの附

近は女工の多い所であるが、収入の約百分の二を健康保険に拂つて居る。我國の被保険者百十五萬人に向つて、醫者が必要な場合には健康保険といふものがあつて、年に二千萬圓の豫算で、約百十五萬人の労働者が健康保険にはいつて居る。さうしてその掛金といふものは、大體収入の百分の二である。ところが女工が喜んで醫者に行くかといふと行かぬのである。健康保険といふものを醫者は餘り喜ばないそれでイギリスと同じことで、秘して行くのである。さうしてイザといふ時に出すのである。斯くの如くなぜ醫者も嫌ひ患者も嫌ふかといふならば、患者自身の自治制を許さぬからである。患者自身には要るだけ要る。百分の二だけでは足りないと思われるれば自治體は之を賄ふであらう。醫療設備を組合で管理して居るならば、百分の二では足らぬから百分の三出さうぢやないか、或はこれだけ出せといふことがいへるのである。

◇國營の機構が問題　それが國營といふもので頑張るとするならば、さういふことが起つて來る。これは米の專賣でも同じことである。例へば近いうちに政友會の主張する通り米專賣案が議會を通過するとする。けれども、これが全國一萬四千四百三十二の協同組合を通して、米を保存し、販賣し、管理するといふことでなければ結局縣々の有力なる、政友會なり民政黨なり、或は其他の政黨の有力なる人々に關係して居る商賣人に渡してしまひ、賣るのもその人、買ふのもその人、結局兩方ともその人の手を通るその通る度毎にコミッションを吸ひ取つて行く、さうしてそのコミッションは何處へ行くかといへば、政友會、民政黨の選舉當時の事務費に變るのである。さういふ仕掛になつてゐる。

であるからして、國營といふものは諸君が生呑込みして、國營賛成ワアワアと手を叩くならば、それは諸君は洵にお目出度いんだといはざるを得ない。多くの無産政黨の人は直ぐに國營々々といふ。政友會でも或者は國營といふが、私は國營といふ意味には賛成である。賛成であるけれども、そのメカニズム、機構が違ふのである。我々はその機構の内部に於て協同組合といふものが基礎にする搾取なき統制が行はれ得るといふ、その條件のみに於て私共は國營に賛成である。土地國有もさうである。諸君は土地國有賛成々々といふのであらう。私はそんな人は目出度い人だなアと思つて居る。何故ならば土地國有にするならば、直ぐに誰が借りるか、百姓が土地を貸して下さいといふならば「君は何んぢや、お前は何處の何んぢや奴だ……」若しそれが縣會議員か國會議員に關係があるならば「私はかういふ政友會總務の斯ういふ者の孫であります。」「アアさうか」とパンと手を叩く。然らざる者は借りられないのである。そこで借りるとすれば、今度は土地といふものの、土地の所有權の代りに借用權、地上權、といふものが賣買されるのである。随つて所有權は國家に移つても地上權といふものは個人の所有であつて、少しも改良されない。

そこで我々は眞の國有といふものは村々に於ける土地利用組合、或は土地生産組合といふものがしつかりしなければならぬと思ふ。村の土地といふものは、或は國營なら國營であつても、その村全體が土地利用組合を通して、その國營土地を管理するといふ管理權といふものが組合に移つて來なければ、眞の國營といふものは戲談半分、それはもう普通の私有財産制度と變りやしないのである。ところが頭の

悪い人が、國營賛成々々でやつて見ると、結局は政黨の食ひ物になるのだ。

◇支那の實例 一例を以ていふならば、支那には農民問題が熾烈であるが、支那の農民問題は日本の農民問題と違つて、支那には昔から學田、祖田、郷田といふやうなものがある。これは村なら村の眞中から、土地の半分、三分の一、或は六割位を占めて居る。この公の土地が何千年間残つて居る。それを誰が使用したかといへば、その學田は即ち村の土地であり、村の祖先を祀るところの土地である。村の大事な公共事業のために使ふところの公の土地であるにも拘らず、その利益といふものは、或る少數の特權階級がとつてしまつて居る。それで村の小作人が村の特權階級と鬭争して居るのが支那の土地問題である。日本の國に於てもこれに似たものになつてしまふ。若しも村の人々が組合意識を發揮して村全體を完全に統制し、土地利用組合といふものを作つて行かなければ、單に國營にしても何にも役に立たない。であるからして、その組合といふものを作らうと思ふならば、村全體のために盡す、村全體のために自分の智力、能力の最善を傾けても、村のために自分は犠牲になるといふ、農村の全意識的なる意識運動がなければ、日本の村は更生が出来ないのである。

◇頑固な家族意識の障礙 ところが最近の我國の農村更生を主張する人々などは、單に篤農々々といつて、個人的に「あの人は朝の午前二時から起きて、晩の十一時まで働いた、寝るのは三時間だけだよくやつて居る」斯ういつて居る。さういふ者が幾ら出て來ても、村全體は更生出来ない。村全體が更生しようと思へば、村全體の土地利用組合のために、自分の全能力を捧げるといふことをやらなければ

ならぬ。然るに困つたことには日本では村全體といふことよりも、自分の家族自分のお祖父さんが土地を買うんだからと、自分の家族意識だけは持つて居るけれども、村意識は持つて居らない。恐らく諸君の中でも親爺がさうであらう。俺の祖先の土地をそんな組合に渡せるもんかといふ譯である。であるから、この我國の農村更生といふことを考へても、これは喜んで村全體を護らうといふ家族意識から村意識にまで目覺めて來なければ村は更生しない。更に村意識から國家意識にならねばならぬのであるが全部どの方面から見ても、結局は單なる國營だけでは駄目である。組合といふものが出來て、統制がとれて、その間に無駄がないやうにしなければならぬのである。

◇組合利己主義と組合他愛主義 諸君の考へでは經濟なんていふものは實に簡單なもので、經濟といふものは物々交換といふやうな利益自體だと思ふならば、それは大きな間違ひである。經濟は結局本能を意識化して、誰も彼も喜んで組合のために、道徳的に意識して、凡ゆる全財産全精力を組合のために捧げて組合を通して、國家民族のために捧げるといふ意識が出來なければ、眞の國家、理想の國家といふものは出來ないのである。

それを皆は組合にはいれば多分少し儲かるだらうと。營利主義から組合に加入する。今の産業組合なんていふものは大抵そんなものである。皆儲けるための組合が多くて村のために、國家のために、民族のためにと思つて居らぬ。組合に入るとはボール投げをしてゐるやうなものだと思つてゐる。組合といふものは壁であつて、ボールを投げて、利益があるとおい來た貰はうといふ。さういつたやうな資本

主義が一寸形態を變へた組合的資本主義といふ形になつて居る。今の一萬四千四百三十二あるところの日本の組合といふものは、残念ながらまだ組合的資本主義的搾取制度の變形である。残念な話ではあるが之は事實である。

◇ライファゼン信用組合の特長 ドイツの如き此の非常時に困らぬといふのは、ドイツにはライファゼン式信用組合がある。日本の信用組合は一萬四千からあるが、大抵は村の有力者がはいつて居る。有力者信用組合である。さうして、有力者信用組合に貧乏人は入れない、貧乏人は不可ないといつてこれを除外して居る。然るにドイツに於ては一八六九年頃にライファゼン式信用組合といふものが生れた。ライファゼン式信用組合はその信用組合が利益を擧げた場合に、有力者は利益の配分を取らないのである。利益を村の貧乏人に分けてしまふ。今日本では東京市本所の中ノ郷質庫信用組合といふのがその式をやつてゐる。これは質屋をやつて居るのである。(日本に質屋をやつて居る信用組合が四つある。)貧しい人々が質を置きに来る。中ノ郷信用組合では一九三三年は二十一萬圓貸出した。去年は利益が約四千四百圓出來た。で去年の一月の總會の時に我々は發表した。これは貧しい人々が質を持つて來たから儲かつた、これはたゞ返したらよからうといつて東京市長に申し出でたら、それは慈善事業と違ふから不可んといつて蹴られた。今年は少し賢くなくなつたので、五十圓づつ割出して、年四朱で貸出すといつて、宜しいといふことになつたので、それを本年はやつてゐる。これはライファゼン式の組織を採つたのである。ライファゼン式といふのは利益のあつた時には全部その利益を農村の困つた人間に事業資金とし

て貸出し、或は呉れてやるのであるから、ドイツではその式に賛成して一九二四年から一九三二年までの間に、驚く勿れ三十億マークといふ金を集めて居るのである。ベルリンに中央金庫があつて、ドイツがこの非常時に農村を救つて居る所以のものは主としてこのライファゼンの信用組合のお蔭である。然るに日本に於ては東京の中ノ郷質庫信用組合以外に一つもないといふことを聞いては、實に信用組合にも呆れ返るのである。これぢやなんのことはない、信用組合やら借用組合やら解りやしない。

◇組合を基礎とする國家改造 隨つて吾々は眞のよき國家といふものを作らうと思ふならば、國家的ではいかぬ、國家の下に組合といふものがしつかりして、一人だつて組合員をして餓えしめない貧乏させないやうにしなければならぬのである。

資本的自由競争といふものは四つの状態を生む。生産的に從屬性を生み、金融的に破産者を拵へ、交換に於ては無用なる競争を起し、消費經濟に於ては非常に悲惨なる生活不安を與へる。この四つの状態を作つて、物價は變動する、統制經濟は亂れる、金融が上下する、爲替は變動する、さうして恐慌と失業とは相交互して、國民は何時も心配して學校へ勉強に來て居つても、俺の親爺はどうやつて居るかと心配になる。こんな不安な状態では學校へ來て居つても勉強さへ出來ない。そこで我々はこの無統制的傾向を帯びた國家を救ふためには、どうしても協同組合を作らなければならぬ。

◇協同組合の種類 その協同組合には七種類ある。今日の協同組合といふものは日本には四種類ある諸君が少しこの經濟機構をお調べになれば解ると思ふがもう三つ加へなければならぬ。經濟機構は生

産組合(純生産者は總人口の二割五分しかない)さうして消費組合は百分全部の人が口を持つて居る。さうして其の間に金融組織を持つて居る。これは空間の關係である。さうしてその上に時間的に發展してゆく。物品取引所が生れる。三品市場のやうなもの、株式取引所が生れる。株式會社の株式取引所が發達する。さうして銀行取引所が生れる。さうしてこゝに約束手形が廻つて來る。全然一つの倫理的な意識的な手形が發行される。さうして其の上に信用組織が乗つかる。この信用組織の上の爲替相場が變動する、これは時間の上に關係があるのであつて、今日の經濟は空間經濟から時間經濟に移行しつゝある即ち益々心理的に、單なる物的な經濟でなくて、心理的な主觀的なデリケートな、スペキュレーティブなものになる。これから半年先きにどうなるか、三ヶ月後にどうなるかといふ即ちこゝに先物取引が生れる。この先物取引が生れて來る時代になると、生産者には生産者組合、消費者に消費者組合そして金融に向つては信用組合、或は消費者と生産者を繋ぐところの販賣組合、さうしてここに共濟的な共濟組合將來に對する保險組合、それに特色な物を利用する利用組合、といふ風にこの七つが生れるのである。

即ち眞の經濟機構を全部國家が掌握するためには、生産組合と利用組合と販賣組合と消費組合と共濟組合と保險組合と信用組合、この七つがどうしても必要である。然るに今日本に許されて居るものは信用組合、利用組合、販賣組合、購買組合の四つであつて、他のものは日本では國家的のサンクションを得て居らない。殊にこれからの經濟といふものは、益々將來に對する時間的保險といふものが加はるのである。天災に對する保險、天候に對する保險、諸君が肺病になつた場合、困らないやうに健康保險が要

る。日本では一年間に約百二十萬人肺病に罹つて居る。諸君の友人の中にも何人かあるであらう。ところが諸君は一旦肺病に罹つたならばそのあとは不安であつて、俺は愈々肺病になつた、親爺に言ふのも氣の毒だし、俺は死ぬに限るといつて、日本では年々一萬五千人づゝ自殺して居るが、その中の約二割といふものは病氣のためである。これが健康保險といふものを作つて平素から三十錢でも二十錢でも掛けて居つて、いざ病氣になつたら、日本の太平洋沿岸の療養所に行つて、自由に何年でも保養が出来るといふ風になれば肺病患者は減つてしまふのである。ドイツは總人口の七割五分が健康保險にはいつて居る。肺病の療養所だけでも三萬近くの病床を持つて居る。さうして近頃は肺病に罹る人さへ減つてしまつたといはれる程、ドイツの健康保險は完全である。

◇産業生活に即したる代議政體 それを日本では政友會でも民政黨でも無産政黨でさへ少しも考へない。たゞもう権力ばかり考へて居る。早く内閣を取りたい一杯で、國民の病氣を救はうといふことはこれだから先きも考へて居らないほど彼等は頭が悪い。そして彼等が何處へ行くかといへば、結局は議會に出る、辯護士ばかりの代議士が出てくる。その代議士になつて居る人はどんな人かといへば、大抵は民法刑法商法を少し知つて居るばかりである。さういふやうな者が、國家の現状、漁村の問題、貧民の問題、勞働階級の問題、職業の問題を知らう筈はない。彼等はこの次の四年目に起つて來る選舉費がどういふ風にとれるかといふことばかり考へてゐる。彼等は進んで株式會社を組織する。それで反産業組合運動といふのはその連中のある者が考へ出した仕事である。地方の新聞紙といふものは實際變なもの

で、大抵は醫者の廣告を載せて居る。醫療組合が發達するといふと、醫者の廣告が新聞社で數百圓減る。それで産業組合の中の醫療組合には、どの地方の新聞でも絶対に反對してゐる。食へんから。それで前述の秋田のとき醫療組合は地方新聞に滅茶苦茶に攻撃されたのである。結局醫療組合が發達したならば開業醫が全部駄目になつてしまふ。開業醫が駄目になつたらば廣告が廻つて來ない。で、醫療組合が潰れなければ、地方新聞社が成立たんからと盛んに攻撃をやる。現金なものである。

結局眞の味方といふものは、民衆それ自身が組織する共同的精神のほかにないといふことになつてしまふ。であるからして、私共は今の辯護士階級の代議士が幾ら替つても、結局、賽の河原の石小積であつて、民衆のためには何にもならないと思ふのである。

◇組合代表による議會改造　で我々はあゝいふ今のやうな議會なんていふものは、須らく速かに解散してしまつて今度は共同組合の代表者を選んで、さうして共同組合の組合長なり専務理事といふものゝ中から選挙し議會を組織するやうにすればよいと思ふ。上院は又別に色々な人々から選んで來て、下院は國民の生活様式をよく熟知して居る人々が組織すればよい、さうなつて來れば選挙の運動費なんか要らない。何時も組織してあるからして、若しも改選が必要であるならば、その次に違つた者を選んだらいい。準備が出來て居る、一寸集つて選挙したらいい、簡単なものである。今ではどいつが出るか判らない。全國で二千萬圓位選挙運動費に要るから、平常から賄賂を取るやうなことになるのである。こんな賽コロ博奕のやうな選挙運動は御免を蒙りたい。

我々はその點に於てムッソリーニは偉い男だと思つて居る。我々はムッソリーニのあの出發點は間違つて居ると思ふが——あのファッショには私は大反對である、暴力といふものは、本能といふものを決して是正し、本能を誘導することは出來ないのである——あの初めの出方は間違つて居るけれども、今はムッソリーニは改心した。眞の國家といふものは辯護士中心の代議制體では不可ない、組合中心でなくちやならぬ、而も眞の理想といふものは、國民それ自身の生活といふものを能く熟知する組合の代表者が、眞の國家の會議といふものを組織しなければならぬといふことにムッソリーニは氣が付いた。我々はムッソリーニといふ男はもと解らなかつたが、最近は大分解るやうになつた人物だと思つてゐる。この點に於ても諸君はよく御注意を願ひたいのであつて、これから議會制度といふものは生活に即したものでなければならぬ。單なる主義、思想だけの運動では駄目である。主義主張だけでは不可ない、生活を根本に改造する、生活本位の國家組織を持たなければいかん。一人だつて貧乏しない。一人だつて無産者が居らんといいやうな社會を造るには、どうしても各職業に従事して居る人を選らんで來なければならぬ。

◇無告の漁村　日本で一番惱んで居るのは漁村である。我國には沿海に五十五萬家族の漁民が居る。五人平均としても約三百萬人位の漁民が居るのである。彼等は一年間に昭和七年度の統計を見るといふと三千九艘沈没して居る。さうして人數からいつても大變なものである。然るに我國では漁民の船舶保険なんていふものはないのである。漁民は貧乏して網さへ買へない。さうして我國の漁民といふものは

議會に一人だつて出て來られないのである。彼等は貧乏であるがために出て來られないのである。これを思ふと日本の國を守つて居る一番大事な漁民の人々を日本國家が忘れてはならない。決して忘れてはならない。日本は海で圍まれて居るではないか、諸君は陸に居るからして陸地だけだと思つたら間違ひである。然るにこの惱んで居る漁民の聲は議會に反映しないのである。この漁民の惱を誰が聞くのだ。而も日本の國の暴風といふものは常に南から北へ吹いて行つて、北太平洋の暴風といふものは決まつて日本沿岸を吹くのである。決してハワイの方へ吹かないのである。支那の大陸の方へも吹かないのである。支那の山西省の如きは暴風は來ない。決まつて玄海灘の方からすつと日本を廻つて太平洋の方へ出て來るのである。この暴風に對する漁民の惱を少し位は考へてやつてもいいぢやないか。而も製紙工場人絹工場、紡績會社が漂白劑の硫酸を流すからして沿海の漁民はすつと惱んで居る。樺太の東海岸ではバルブ工業が盛んになつて來ると共に鯨が獲れなくなつた。琵琶湖は諸君も御存知であらうが、年に數百萬圓の鮎や鯉が獲れたものが、今は殆んど獲れない。方々に大きな人絹會社が出來た、めにそれ等の會社が硫酸を流す、それをあの瀬田川に流されるのであるから魚が上つて來られない。琵琶湖の東側には大きな漁場はないが西側の比良の山を背にして今津、堅田、小松といふところの三ヶ所には年々數百萬圓の魚が獲れたけれども、今は網を四年前から疊んで倉庫に入れた切り、漁民は泣いて居る。然るにその聲がこればかりも議會に反映しないのは、日本の議會が辯護士中心の議會制度だからである。

◇國體と政體 であるから日本の國の下層階級、労働階級、漁民階級、運輸階級、生産階級、農民階級

の代表者、教育家の代表者が出て來て生産者も消費者も交通機關に關係ある人も、空中に關係して居る人も、全部生活に關係してをる人の代表者を出して、この自分の生活問題の根本を議する議會制度を立直すといふことは目下の急務である。であるからして私共は眞の國家といふものは、單に法律をいぢくり廻し、六法全書の民法の第六百條の第何項の條文がどうなつて居るとか、そんなことは、貧乏人に直ぐには直接効能は少ないのである。法律改造は構はない、我々はそれに反對ではない。けれども法律は民衆の生活といふものを保證する法律でなくてはならぬのである。その職業が眞に民衆のための職業であり得るやうな、さういふ生活權を保證し、労働を保證し人格權を保證するといふやうな、生活と、労働と、人格の三つを保證し得る眞の産業組合或は協同組合の基礎を持つたところの議會制度が生れてくれば眞の議會制度は改造し得るものである。それをしないからして、民政黨や政友會が幾ら政策協定なんていつても、結局アミーバの食指だけは動く、なんのことはない、あれは一種の十九世紀の幻をまだ考へて居るのである。あれでは我國百年の大計は樹てられないのである。どうしても百年の大計を樹てようと思ふならば、須らく今の衆議院を解散し、産業組合中心の代表者を基礎にしたところの、組合國家の議會を作るべきであると思ふのである。それに考へ至らずして今頃まだ政權の授受なんといふことを考へて居るのは、それは西園寺詣りをして居る人が考へて居るのであつて國家百年の爲にはならない。であるからして、我國に於ても團體といふものは護らなくてはならぬ、この國體に觸れてはならぬけれども、我國の今の立憲政體の内部に於ける經濟的動向といふものを根本的に立直すためには、今の政

黨を解散して協同組合を基礎にするものになくはならぬ。それには諸君が若い時から方向を意識し自分の經濟研究が、自分の政治研究が、自分の法律研究が、自分の成功の爲めでなくて、民族の利益、世界の平和のために、その爲めに俺は勉強するんだといふ意識を持たなければならぬ。

◇世界平和と組合國家 斯くの如く考へて來るならば、協同組合を通じて世界の平和も來たる。軍縮會議といふものが、大砲の口徑を何時にするなんていふことを決めて居る。そんな細かい大砲の口徑まで決められるならば、なぜイギリスと日本とが最近印度に於てシムラ會議を開いた如く、なぜ印度に對する生産工業はこれだけを保證しよう。日本に對しては生産はこれだけ保證してくれといふやうな共同組合中心の貿易が出来ないか。一體保護貿易とか自由貿易とかいふのは、あれは矢張り十八世紀式である。世界全體の十九億萬人の人々が、助け合ひをしようと思ふならば、デンマークとイギリスが嘗てやつて居つたやうに、デンマークを認めよ、デンマークの産業はかくかく發展させよう、イギリスはこれだけ買はう、斯ういつた寧ろグッドウィルな好意的な組合取引をしなくてはならぬ。軍縮會議に専門家を何十人か遣つて、何年か研究してまだ決まらぬのは、産業組合貿易を基礎としてゐないからである。もう少し徹底したる協同組合貿易といふものを考へるならば、世界は戰爭をせずに済むのである。即ち、保護貿易とかプロテクト經濟といふものは頭の悪い連中がやつて居ることである。我々がかはいさうに思ふのは、あのイギリスの總理大臣をして居るマクドナルドである。私は最近も香港に行つて斯ういつた。色々日本も批評せられる、日本も悪いところがあるだらう。けれども日本だけが悪いと思ふのは

間違だぞ、イギリスも少し考へて呉れ、イギリスは阿片問題で支那の南に殖民地を造つて香港を奪つてしまひ、威海衛を奪り、上海に租界地を設け、同じく漢口にも租界を設け、印度をとつてしまつた。フランスはフランスで以てコーチン・チャイナを奪つてしまつた。又、南へ來た蘭領印度は六千萬の人口を有つて居る、ジャバ、スマトラ、ボルネオの一部分、其のほか南太平洋の島々全部和蘭領である。

◇泥棒の世界平和 斯うして日本と支那とを北の方に追詰めて、眞の獨立國は日本だけである。さうして置いて皆は平和々々といふ。何のことはない、泥棒の平和ぢやないか、俺は平和論者だ、俺は平和論者だといつても皆んな泥棒ばかりである。先きに奪つてしまつて、こいつはフランスの物であるこいつはイギリスのものだといつて、そして知らん顔をしてゐる。平和々々、そんな平和論は私は聞かないといつた。それから更に私は日本も悪い、悪いけれどもイギリスも悪い、印度を獨立させろ、フランスも悪い、コーチン・チャイナを返せ、和蘭もしつかりせい。私は自由人だから正直に言ふ。さうして皆んな改心して、この際個人々々が改心するやうに、國家も改心しようぢやないか、さうして世界が軍縮會議なんといつて、大砲の口徑を定めるならば、序でのこと貿易といふものも新しく保護貿易でもなく、自由貿易でもなく、プロテクト經濟でもなく、東洋モンロー主義でもない、さういつたやうなことは止めてしまつて、世界がもう一度組合共同主義に歸ればよいといつたのである。恰度其の席に香港の總督が來て居つた。その話をきいてゐた香港工科大学のスミスといふ男が、賀川といふのは亂暴なことをいふ奴だ、あんな奴は再び香港に上らすべからずといふことをいふた。ところが同じイギリスのキリスト

教の監督はえらい男で「この男のいふことは正しい、あれが本當だ、香港に上らせんといふのは間違つて居る。あゝいふ風に行かなければ平和には行かない」といつてゐた。私はイギリス人にも解つた男が居ると思つて感心した。

◇協同組合主義の旗の下に 我々は斯く考へて居るので、これからの國家といふものは今の普通選挙で疲れて居るところの議會といふものを改造して産業的普通選挙に還元するがよいと思ふ。國營論でも全部協同組合管理の下の國營論でなければならぬ。普通選挙も産業組合普通選挙に變つて組合を基礎にする國家行政、國家立法をもつやうにせなければならぬ。さうして更に其上に世界の平和、國際の平和といふものをその方向に向はせなければならぬと思ふ。國際聯盟といふやうなもの、あれはイギリスとフランスとのまあ露骨に言へば一つの傀儡である。シヤムが困つたのもそれである。シヤムは北の方からはイギリスに押され、南の方からはコーチン・チャイナのフランスに押されて、シヤムが眞中にゴム毬のやうにしぼんだり脹れたりして居る。それで彼は國際聯盟が滿洲を管理すればシヤムと同じやうな状態になつて、結局拔差ならないやうになるからして、滿洲は矢張り獨立した方がいゝんだといふことで投票しなかつた。シヤムは却々解つて居る。それで國際聯盟もイギリスとフランスが威張るのでは困るイギリスのサイモン外相も私は個人的に知つて居る、(私は十日間彼と一緒にエルサレムでおくつた。)親しく話もして知つて居るけれども、イギリスの心ある人は、マクドナルドやサイモン外相の方法では世界には平和は來ない、世界の平和を破るものは却つてイギリスであるといふことを言つて居る。

随つて我々は此際、先手を打つて日本から世界の平和は協同組合貿易を基礎にすべしと、斯う叫んで行くのが本當であると思ふ。私は一九三一年以後——(滿洲問題以後)世界に向つて世界の平和は協同組合を基礎にすべしといふことを主張して來たのである。さうして世界の有識者もこゝまで來なければ世界の平和は來ないといふことを認めて呉れつゝある。

こゝ十數年間に世界の經濟も變り、政治も急激に變るであらう。でどの方向に國家を改造すべきであるかと云へば、それは結局組合國家であると私は斷言する。そのために私は諸君の力と諸君の人格とを借りて、日本をよき國家にしたいと切望するものである。

7.20

昭和九年七月二十日印刷
昭和九年七月二十五日發行

【定價金參拾錢】

不許
複製

編輯兼
發行人

賀川 豐彦

印刷者

東京市京橋區淺町三丁目二番地
木藤 彦三郎

印刷所

東京市京橋區淺町三丁目二番地
三豐社印刷所

東京市本郷區森川町八十一番地

東京學生消費組合

發行所

